

持続可能な開発のための教育の視点を取り入れた地理的分野の学習指導

～新しい観点別学習状況の評価観を通して～

東京都中学校社会科教育研究会地理専門委員会

1 はじめに

昨年度の全中社研東京大会において東京都中学校社会科教育研究会では、教育基本法の改正とそれを受けて示された 21 世紀に生きる生徒に求められる資質、知識基盤社会、グローバル化のいっそうの進展などもろもろの課題や時代背景のもとで改正された学習指導要領の趣旨を十二分に踏まえ、新しい学習指導要領のもとでの新しい社会科教育の在り方を模索してきた。

また、これからの社会では、広い視野から現在の世界情勢や国内状況などを省みることが必要であり、次世代の日本をになう中学生は世界を舞台に活躍することが今以上に求められてくることは明らかである。国際社会に通用する日本人の人材育成が求められる中、国際的に通用する人間とは、我が国と郷土を愛する心や自尊心・誇りをもち、日本の伝統と文化を尊重し、多文化社会を生き抜き、協調・共生していける力が必要となる。

そこで本研究会では平成 24 年度の研究テーマを「国際社会を生き抜くこれからの生徒を育てる社会科学学習の在り方」として各分野に分かれ、学習内容、指導方法の両面に視点を置き、前者は社会参画や持続可能な社会づくりを重視した授業の工夫、後者は言語活層の充実や習得―活用―探究の学習過程の工夫を重視した授業の工夫についての研究を進めている。

こうした流れの中で地理専門委員会では、昨年度までの持続可能な開発のための教育の視点を入れたよりよい地域を形成しようとする生徒を育成する学習指導に関する研究の成果と課題を踏まえながら検証授業を重ねていき、より深い理論構築を進めていくとともに、これらの学習を一層充実させていく評価についての研究を始めた。

評価についての研究では、各法令や学習指導要領が新しくなり授業観が大きく変わる中で平成 20 年版学習指導要領を踏まえた学習指導を充実させるにはこれまでのペーパーテスト中心であった評価を大きく見直し、生徒一人一人の学習状況をとらえる評価内容・評価方法の工夫が必要である。そこでこれまでのペーパーテストに加えて思考力・判断力・表現力を総括的にはかるパフォーマンス評価や学習に対する関心・意欲・態度や資料活用の技能を着実に伸ばしていくワークシートを活用した形成的評価の工夫が特に有効であるという研究仮説のもとに検討を重ねているところである。

2 よりよい地域を形成しようとする生徒を育成する学習指導の在り方

(1) 平成 20 年版学習指導要領と都中社研地理専門委員会の研究とのかかわり

平成 20 年 3 月に 21 世紀の社会に生きる資質や能力を育成するために、新しい学習指導要領が告示された。平成 10 年版学習指導要領の中学校社会科地理的分野では、地域のとらえ方を学ぶことが重視さ

れ、2～3の都道府県や国々の調べ方を学習する指導が行われてきた。しかし、数少ない都道府県や国のとらえ方を学習するだけでは、我が国の国土認識を育成したり、世界像を構築したりすることが難しいことが指摘された。そのため、平成20年版学習指導要領では、学び方を学ぶことを重視しつつも、世界と日本の諸地域の地域的特色について学ぶ地誌的な学習を充実させて世界と日本の地理的認識をより一層養うことができるようにした。

地誌は地域を学習対象とし、地形・気候・人口・交通・産業・歴史・文化などを重層的にとらえることを特徴とするため、平板で網羅的な学習の繰り返しになりがちである。また、変動の激しい今日にあっては、一度覚えたこともすぐに陳腐化してしまうため、地誌の学習は役に立たない、といった批判も少なくなかった。そこで、平成20年版学習指導要領が求める地誌学習は、静態的な地誌学習ではなく、動態的にとらえる地誌学習が求められるようになった。動態的な地誌学習とは、地域における課題や顕著にみられる地理的事象を中心テーマとして、それらと地域の諸事象を関連づけながら地域的特色を明らかにするものである。

すなわち、平成20年版学習指導要領では、生徒の視野を広げ、生徒自ら地域的特色をとらえる能力を育成するとともに、動態的に地域の諸事象や課題を追究する能力を育成することが求められている。このような能力を生徒一人一人が身につけることが、地域をつくる一人一人の基礎的な能力を育成することになるといえる。したがって、よりよい社会を築くためには、まず生徒一人一人が地域的特色をとらえたり、地域の課題を見いだしたりすることのできる能力を育成することが重要である。

また、よりよい地域を構築するためには、一人一人が地域的特色をとらえるとともに、地域の課題やその解決策を考えることが必要になる。しかし、地域に対する考え方や地域の課題を解決する方策は、千差万別である。したがって、よりよい地域を構築しようと考えたとき、多様な意見や考えを出し合い、それらを調整することが必要になる。このように、多様な意見や考えを出し合い、話し合いを通して、意見や考えを調整し、合意形成を図ることによって、よりよい地域や社会を構築することが可能になる。

すなわち、よりよい社会をつくるには、生徒一人一人が地域的特色をとらえたり、地域の課題を見いだしたりすることのできる能力を育成することが必要である。また個々に異なる意見や考えを調整し、合意形成を図ることがよりよい地域や社会を構築できる能力を育成することになると考えた。地理的分野では、これらの能力の育成を図ることが、地域社会や国家の一員として、正しく判断したり、行動したりするなど、生きる力をはぐくむことにつながるととらえた。(資料1参照)

(2) 持続可能な開発のための教育と地理的分野の学習指導

人々はこれまで豊かな生活を構築するためにGDPを引き上げることを目指した生活を送ってきた。そのため、利便性や効率性を過度に追求し、資源やエネルギーを大量に消費する生活をつづけてきた。しかし、資源やエネルギーは無尽蔵でないこと、自然には限りがあることを人々が自覚しはじめ、従来の生き方や生活スタイルを変えることが求められるようになってきた。このように従来の生き方や生活スタイルを変革するには、あらゆる場面で人々の意識を変えることが必要であり、教育そのものの在り方を見直さなければならないと考えるようになってきた。

このような流れを受けて生まれてきた考え方が、「持続可能な開発のための教育」である。「持続可能な開発」とは、将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような社会づくりのことを意味する。環境の保全、経済の開発、社会の発展(以下を含め、「社会」を文化の面も含めた広い意味で使う)を調和の下に進めていくことなのである。このような持続可能な開発は、私たち一人一人が、日常生活や経済活動の場で意識し、行動しなければ実現しない。そのため、私たち一人一人が世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革することが必要であり、そのための新たな教育が求められるようになってきた。平成20年版学習指導要領では、このことにかかわって「ウ 日本の諸地域」(エ 環境問題や環境保全を中核とした考察)の学

習内容として持続可能な社会の構築を取り上げている。

また、私たちは東日本大震災を経験した中で東北地方の人々の辛抱強さや、世界中の人々の温かな支援の心を知った。そして限られた国土の中で、どう生きていったらよいのか、崩壊した地域や国土をどう復興させていったらよいのか、ということを一一人が考えていくことが求められている。このような状況の中で中学校社会科地理的分野では、地域ごとに異なった課題を抱えている状況の中で、それぞれの地域の状況に則して、よりよい地域を形成するにはどのようにしたらよいか、といったことを考える学習を充実させなければならない。そのためには、地域を学習対象とし、地域に則して地域の将来像を考える、持続可能な開発のための教育の視点を取り入れた学習指導を行うことが有効である。

(3) 持続可能な開発のための教育の視点を入れた学習指導の在り方

持続可能な開発のための教育の視点を入れると、各地域の地域的特色を明らかにするだけでなく、それぞれの地域に内在した課題を浮き彫りにすることになる。また、それらの課題や問題の解決策を地域に則して考えることになり、よりよい地域の在り方を主体的に考える学習指導を展開できる。

持続可能な開発のための教育は人々の価値観の転換を促し、行動までも変革することを求めている。そのため、結論だけを重視した指導を行うと、価値観の押しつけや道徳的な授業になりかねない。しかし、学習のプロセスに、批判的思考を取り入れると、生徒一人一人が多様な情報の中からより適切な情報をとらえたり、地域の問題やその解決策を考えたり、さらにそれらを班や学級全体で話し合うことによって、よりよい地域の在り方を考える学習指導が展開できると考え、持続可能な開発のための教育の視点からの研究を行った。

3 よりよい地域を形成しようとする生徒を育成する学習指導を充実させる評価の工夫

平成 14 年度から、集団に準拠した評価（いわゆる相対評価）から目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）や個人内評価に評価方法が大きく変わった。相対評価による学習指導は効率よく学習内容を理解させることに主眼がおかれるため一斉形態の指導が多く、生徒を相対的にランク付けしてきた側面がある。このような学習指導では生徒一人一人の生徒の理解度に対してあまり目が向けられず、そのために学習内容の理解が不十分な生徒に対する手立てがほとんど行われなかったこともあった。

しかし目標に準拠した評価では、あらかじめ設定した目標に各生徒がどれだけ到達できるようになったか、ということが重視されるため、学習意欲が高い生徒に対しては、より高次の指導を行うことができるとともに、つまずいた生徒に対しては、教師の適切な指導が可能になる。

生徒の学習上でのつまずきは学習意欲の低下をおこしかねない。特に観点別学習状況の 4 観点のうち関心・意欲・態度は他の 3 観点のベースになるものであり、つまずくことによって学習課題が解決されないために興味や関心を失ってしまった生徒は、他の 3 観点ともおおむね満足できる規準にはなりにくい。したがって平素の授業から生徒の学習状況を把握するように努めることが大切である。

また、目標に準拠した評価を行うには毎時間の学習指導の中で個々の生徒の学習状況をとらえ、各生徒に対して臨機応変に対応した指導を行うことが必要である。そのためには「教師が教える学習」から「生徒が学ぶ学習」へと学習形態を転換し、生まれた時間的なゆとりの中で教師は生徒一人一人の学習状況を把握することが大切である。すなわち、生徒が主体的に取り組み、教師が生徒の学習状況を把握するにはワークシートを活用して個別学習を行うことが有効であると考え、ワークシートの活用を重視した指導を行った。

さらに平成 22 年に指導要録が改訂では「習得」レベル（基礎的・基本的な知識・技能の習得）は、観点「知識・理解」「技能」であり「活用」レベル（知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力）は観点「思考・判断・表現」であり「学習意欲」は観点「関心・意欲・態度」として設定されたことになる。「表現」の位置づけが変わったのは、平成 20 年版学習指導要領が打ち出そうとする教育評価の新しい考え方を示すものである。「思考・判断・表現」として従来の「思考・判断」に「表現」を加えた趣旨、この観点に関わる学習活動を、言語活動を中心とした表現にかかわる活動や生徒の作品等と一体的に行うことを明確にしたものである。したがってこの観点を評価するにあたっては、単に文章、表や図に整理して表面的な現象を評価するのではなく、基礎的、基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容等に即して思考・判断したことを、記録・要約・説明・論述といった言語活動等を通じて評価するものとしている。その際に有効な評価方法がパフォーマンス評価である。

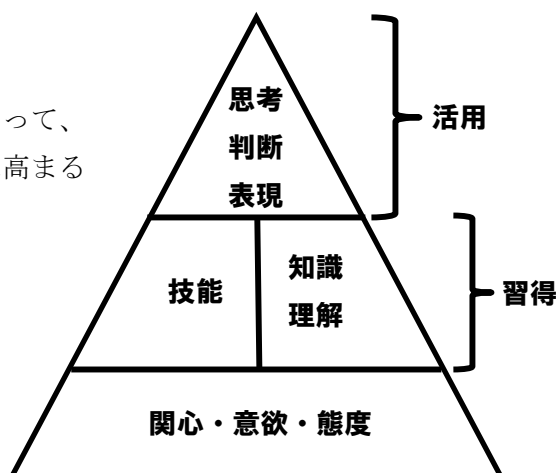
パフォーマンス評価とは、観察や対話による評価、実技テスト、自由記述による筆記テストなどさまざまな形態がある。このパフォーマンス評価の信頼性を高めるものとしてルーブリックが注目されている。ルーブリックとは、パフォーマンスの特徴を説明する複数の記述から構成されている評価基準表のことである。これを示すことで教師が何を学習目標としているのかということが生徒にも理解できるようになってくる。大切なのは、子どもが精一杯考えて価値判断に至るまでに、事実即して考えることができる思考力・判断力を育てることを目的としていることである。（資料 2、3 参照）

(資料1) 平成10年版学習指導要領と平成20年版学習指導要領との比較

項目	平成10年版学習指導要領	平成20年版学習指導要領
世界の諸地域	<p>「世界の国々の中から幾つかの国を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地理的特色をとらえさせるとともに、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。」</p> <p>⇒それらの国の地域的特色を追究しとらえる学習を通して、国家規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることを主なねらいとしていた。</p>	<p>「世界の諸地域について、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。」</p> <p>⇒州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追究を通して、それぞれの州の地域的特色を理解させることを主なねらいとした。</p>
日本の諸地域	<p>「47都道府県の中から幾つかの都道府県を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる」</p> <p>⇒都道府県の中から、二つ又は三つの都道府県を取り上げ、その地域的特色を追究しとらえる学習を通して、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることを主なねらいとしていた。</p>	<p>「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域について、以下の(ア)から(キ)で示した考察の仕方を基にして、地域的特色をとらえさせる。」</p> <p>⇒日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して、日本の諸地域の地域的特色をとらえさせることを主なねらいとした。</p>
ねらい	特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることが主なねらい	地域的特色をとらえさせることが主なねらい

(資料2) 4観点の関係図

※ 習得や活用が進むことによって、意欲・関心・態度がさらに高まることも含めています。



(資料3) 各観点の特色と評価方法の整理

観点	観点の特色	評価方法
関心 意欲 態度	他の3観点のベースになるものであり、つまづくことによって学習課題が解決されな いために興味・関心を失ってしまった生徒 は、他の3観点ともおおむね満足できる規 準になりにくい。	ノートやワークシートの細やかなチェック によって良いところを評価していく。
資料 活用 の 技能	毎時間の学習指導の中で個々の生徒の学習 状況をとらえ、各生徒に対して臨機応変に 対応した指導が必要であり、「教師が教える 学習」から「生徒が学ぶ学習」へと学習 形態を転換し、うまれた時間的なゆとりの 中で生徒一人一人の学習状況を把握するこ とが大切。	ワークシートを活用した個別学習を授業内 に設定し、個別指導を繰り返し行うこと によって資料活用の技能を高めていく。
思考 判断 表現	平成20年版学習指導要領が打ち出そうと する教育評価の新しい考え方を示すもので あり、「思考・判断」の観点に関わる学習 活動を、言語活動を中心とした「表現」に 関わる活動と一体的に行うようにした。 ↓ 「思考・判断・表現」は社会科学習の総括 的な観点であり、「ペーパーテスト」では その能力を評価しきれないとする。	「パフォーマンス評価」と「ルーブリック」 の活用が有効である。 ↓ 「パフォーマンス評価」とは、リアルな文 脈、あるいはシミュレーションの文脈にお いて、知識やスキルを総合して使いこなす ことを求めるパフォーマンス課題を示し、 レポートなどの記述、プレゼンテーション や話し合いなどの口頭発表などさまざまな 形態での活動を評価していくものであり、 「ルーブリック」とは、パフォーマンスの 成功度（完成度）を示す数段階の尺度と、 それぞれの段階にあてはまるパフォーマン スの特徴を説明する文章からなる評価基準 表のこと。

(注)「知識・理解」の観点は省略しました。

4 検証授業 I

(1) 単元名

中学校社会科地理的分野 (1) 世界の様々な地域 ウ 世界の諸地域① (ウ) アフリカ州

(2) 単元の目標

アフリカ州に暮らす人々の生活を、「貧困と発展」を主題とし多面的・多角的に考察し、その地域的特色をつかむ。

(3) 中単元展開の趣旨

第1学年で学習する「(1) 世界の様々な地域、ウ世界の諸地域」において扱う地域は通常6地域である。しかし学習指導要領上の順序で授業を進めた場合、地域が広大でかつ複雑な様相を見せるアジアを最初に扱わなければならない、第1学年の発達段階を考えると困難が予想される。そこで、学習指導要領上の順序を変化させることで、生徒の発達段階に合わせ、かつ地域間の接続を容易とすることを考えた。

以下に中単元ウ世界の諸地域の実施順を示す。なおカッコは学習指導要領上の表記である。

- 1 (ウ) アフリカ州
- 2 (エ) 北アメリカ州
- 3 (イ) ヨーロッパ州
- 4 (オ) 南アメリカ州
- 5 (カ) オセアニア州
- 6 (ア) アジア州

(4) 主題設定の理由

長らく貧困のイメージで語られることが多かったアフリカ州だが、近年多くの地下資源の恩恵を受け経済的に発展の様相を示している。しかし数字上は経済発展し、貧困からの脱却が行われていそうではあるが依然として世界で有数の貧困地域であり続ける現実がある。すなわちアフリカ州は豊かさと貧しさとの大きな格差の中にある。アフリカ州が抱えるこの「貧困と発展」を主題とすることで今のアフリカ州の姿を明確にできることと、発展の是非を考えることでよりよい地域を築いていく姿勢を養うことができる考える。

なお今回主題学習で扱う「アフリカ州」はサハラ以南のサブサハラ・アフリカのこととする。

(4) 単元の評価規準

視点	ア：社会的事象への関心・意欲・態度	イ：社会的な思考・判断・表現	ウ：資料活用の技能	エ：社会的事象への知識・理解
単元の評価規準	アフリカ州の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、とらえようとしている。	「貧困と発展」を主題としてアフリカ州に暮らす人々の生活の様子を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	アフリカ州の地域的特色に関する様々な資料から必要な情報を読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	「貧困と発展」を主題に、アフリカ州の地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

(5) 単元の指導計画 (全5間)

	学習内容	評価の観点			
		関	思	資	知
第1時 アフリカ州を大観する	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ州の国名地形を学習する。 アフリカ州がサハラを境に2分されることを理解する。 アフリカ州のイメージを考える。 	○			○
第2時 アフリカ州の産業の変化	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ州が列強の植民地であったことを読み取る。 レアメタルの産出が成長とつながっていることを読み取る。 多くの国がモノカルチャー経済で不安定な経済状況であること理解する。 			○	
第3時 アフリカ州の貧しさ	<ul style="list-style-type: none"> 高い成長率の裏で、絶対貧困率が高いことを読み取る。 アフリカ州の「現状」が厳しいものであることを資料から読み取る。 			○	
第4時 本時 アフリカ州がよりよい地域になるために	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ州がよりよい地域になるにはどの問題を解決していくべきかを、資料に基づいて考えさせ発表する。 		◎		
第5時 アフリカ州のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ州を白地図にまとめる、よりよいアフリカ州とはどのような地域か考える。 	◎	◎	◎	

(6) 本時の展開

① 本時の目標

アフリカ州がよりよい地域になるために解決しなければならない課題を考える。

② 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	前時までの復習	アフリカ州がGDP的に成長している面と、飢餓や紛争など厳しい状況にあることを前時までの資料から復習する。	入り込みすぎないようにする。	
展開 40分	発問 あなたはAUの議長です。アフリカ州が今よりもっと良い地域になるためのこの課題から解決していくか考えましょう。			
	個人活動 (5分)	根拠をはっきりさせて自分の意見をつくる。	無責任な意見ではなく、資料に基づき、根拠をはっきりさせる。 無言で集中して作業させる。	【相互評価】 ・根拠がはっきりしている。 ・意見が論理的である。
	グループ活動 (18分)	班で一人一人発表を行い、話し合いを行い意見を一つにまとめる。	必ず班内自分の意見を発表することを徹底させる。その時に評価を行わせる。	
	班発表 (9分)	各班でできた意見を発表する。	意見は画用紙に書いて黒板に貼る。	思考 {ワークシート}
個人活動 (5分) 発表 (3分)	班内および他班の意見を聞いて、最終的な自分の意見をまとめる。 最終的な個人意見を発表する。	2～3人を指名する。		
まとめ 5分	アフリカ州の可能性 感想記入	5歳未満死亡率の低下や、経済成長、ボツワナの成功などを例にこれからのアフリカ州の可能性を理解する。 授業の感想を記入する。	理解度を自己評価させる。	

③ 本時の評価

アフリカ州がよりよい地域になるために解決すべき課題を根拠をもって説明できている。

【社会的な思考・判断・表現】

※評価のためのルーブリック

A	アフリカ州の解決すべき課題を複数の根拠に基づき、論理的に意見が述べられている。
B	アフリカ州の解決すべき課題を根拠に基づき、論理的に意見が述べられている。
C	意見に根拠が無く、論理的でない、

(7) 成果と課題

本授業は「アフリカ州のどの課題から解決していくべきか」を考えることによって、アフリカ州の地域的課題を見だし、考えていくことを目標とした。

1年生での最初の地誌学習ということもあって、「どのように解決していくか」ではなく、「どれから解決していくか」という発問となっている。学習指導要領の趣旨に沿い、持続可能な開発の視点をどの単元においても意識して発問を設定する必要があるが、生徒の発達段階に応じて取り組みやすい課題設定をしていく必要があると考える。

さて、本授業においては自分の意見をまとめる際に、評価の規準となるルーブリックをワークシート上で明示した。生徒たちはそのルーブリックに沿った回答を書こうと努力をし、多くの生徒がB以上の評価をクリアした。A評価の例では、「アフリカの人々が文字を読み書きできれば、ほかの問題を解決するときの話し合いもまともにすることができるし、頭が良くなることにつれて、自分たちで食料を作り出すことができたり、仕事などもきちんとできるようになるから」とあり、複数の根拠（今回は根拠を理由という扱いで行った）を示すことができた。B評価の例でも「食料は人にとって一番とっていいほど必要なものだから、識字率などの知識的なことよりも食べて、栄養をつけて元気に過ごすことの方が大切だと考えるから」と論理的（今回は論理的を意味の通るという扱いで行った）な文章を作成することができた。全体として普段は感覚的だったり、意味が通らなかつたりする文章はほとんど見られなかった。

本授業において課題としては、全体的に根拠が事象の羅列（「〇〇も解決できて、〇〇も解決できる」というような）が多くなってしまっていて具体性に欠けるところが目についた。それは今回提示したルーブリックに「具体的」という文言が欠如していたことに関係があると思うが、以後の課題設定の時により良い文章が書けるように、生徒の発達段階を考えた発問をしていく必要があることを感じた。

本授業においてルーブリックを提示することで、教師がどのようなことを求めているかを示せば、生徒はそれに応えようとするということがわかった。逆に言えば生徒の力をいかに引き出すかも教師による課題の設定と発問の仕方によるということになるので、より一層の研究と工夫をしていきたいと考える。

5 検証授業Ⅱ

(1) 単元名および教材

・教科書：東京書籍『新しい社会 地理』

第3章「日本の諸地域」4節「中部地方」（190～199 ページ）

- ・地図帳：帝国書院『新編 中学校社会科地図』（旧課程版）
「中部地方」「愛知県とそのまわり・他」「新潟県・他」（91～96 ページ）
- ・資料集：東京法令『グラフィックワイド地理 世界・日本』
「日本の諸地域 中部地方」（日本 62～69 ページ）

（２）単元のねらい

この単元では、中部地方の農業や工業など産業に関する特色ある地理的事象に着目して、それを中核として中部地方の地域的特色をとらえさせる。その際に、産業を成立させている自然的条件と、消費地との位置関係や他産地との競合関係、生産に携わる人々の工夫などといった社会的条件の両面から関連づけて地域的特色を追究する。また、特色ある産業地域の形成など産業が地域において果たしている役割や地域の産業の動向は、それを成立させている地理的諸条件の変化や他地域との関係などに伴って変化することなどを踏まえて考察する。

現学習指導要領は、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てることを重視している。そのため生徒の主体的な活動を生かしながら目標の確実な実現をめざす学習指導の改善と同時に学習指導の過程や学習の結果を継続的、総合的に把握する学習評価の工夫改善が求められている。また、学習評価の妥当性、信頼性を高めるためには、指導の目標及び内容と対応した形で評価規準を設定することが必要である。

そのために、まず基礎的な知識や技能の習得に力を入れた。現在の2学年から教科書が新しくなったこともあり、授業者が教材を深く理解する目的も含めて、教科書の第2章「世界からみた日本のすがた」から、見開き2ページに、きっちり1時間ずつ充てて指導してきた。さらに、第3章「日本の諸地域」の指導においても、各地方の導入にあたる第1時、第2時において各地方を1つの地域として大観するとともに、地形や気候などの自然条件、都道府県・県庁所在地名など、学習の基礎・基本となる知識を習得する時間とした。

その上で、第3時以降において習得した地理的事象を有機的に関連付けて調べ追究するような生徒の主体的な学習活動を行っていく必要がある。また、言語活動の充実を視野に入れた表現活動を指導していくためには、学習評価の工夫が必要であると考えた。そこで、この第3章「日本の諸地域」の指導と評価にあたってはパフォーマンス課題と判定基準(ルーブリック)を設定して評価する場面を取り入れた。パフォーマンス課題とは学習の到達点を生徒のパフォーマンスによって具体化したものであり、パフォーマンスの成功の度合いを示したものが判定基準(ルーブリック)である。

パフォーマンス評価を取り入れることによって、教師は生徒がどのくらい深く思考できるようになっているかを把握することができるとともに、単元末に生徒がどんな姿に成長してほしいのかという理想の姿を考えておくことによって、より目標に即した指導をすることができる。また、教師が何をゴール(目標)にしているのかが生徒にも理解でき、生徒はよりよいパフォーマンスを生み出そうと、一生懸命考えて課題に取り組むことが期待できる。さらに、第3章「日本の諸地域」の指導と評価において、パフォーマンス評価を一貫して行うことによって、資料活用の技能とともに、思考力・判断力・表現力の向上をめざすものである。

（３）単元の評価規準

観 点	ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判 断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象への 知識・理解
評 価 規 準	中部地方の地域的特色 に対する関心を高め、そ れを意欲的に追究し、と らえようとしている。	中部地方の地域的特色 を、 <u>産業を中核とした考 察の仕方(※)</u> を基に多 面的・多角的に考察し、 その過程や結果を適切 に表現している。	中部地方の地域的特色 に関する様々な資料を 収集し、有用な情報を適 切に選択して、読み取っ たり図表などにまとめ たりしている。	中部地方について、 <u>産業 を中核とした考察の仕 方(※)</u> を基に地域的特 色を理解し、その知識を 身につけている。

※「産業を中核とした考察の仕方」とは、地域の農業や工業などの産業に関する特色 ある地理的事象に着目し、それを成り立たせている様々な自然的条件と社会的条件 の両面から関連付けて多面的・多角的に考察することによって、中部地方の地域的 特色をとらえさせることを意味している。

(4) 指導計画 (6時間扱い)

学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価			
			関	思	技	知
第1時 中部地方を大観する ・教科書p. 190～191 ・地図帳p. 91～92 ・資料集p. 62～63	○中部地方が日本列島の 中 央に位置し、日本ア ルプスな ど高い山が連 なる地形の特 色を理解 する。 ○中部地方が、中央部に 高く そびえる山々によ って東海 地方・北陸地 方・中央高地の 三つの 地域に大別されるこ と を理解する。	・地図帳を活用して、日本 ア ルプスを境に川の流れ が南北 に分かれることを 読み取らせ る。 ・河川の中流部には盆地が 点 在し、下流部には平野 が形成 され、人々の生活 の舞台とな っていること を把握させる。 ・各地の気温と降水量のグ ラ フから、三つの気候の 特色を 説明させる。 ・それぞれの地域の気候の 特 色は季節風、海流、標 高など 自然条件と関連が あることに 気付かせる。			○	○
第2時 人口と産業の特色 ・教科書p. 192～193 ・地図帳p. 91～92 ・資料集p. 64～65	○中部地方の人口が海岸 に 沿った平野や、内陸 部では盆 地に集中して いることを理 解する。 ○中部地方の各地では、さま ざまな産業が活発 に行われ ていることを 理解する。	・地図帳から新幹線や高速 道 路が通っている位置を 読み取 って、地形との関 わりに注目 させる。 ・新幹線や高速道路が都市 を 結びつけるように発達 したこ とを説明させる。 ・中部地方の各県で、それ ぞ れ全国有数の生産額を 占める 産業があることに 関心を持た せる。 ・北陸地方の産業を例に、豪 雪と河川の急流という 自然条 件と産業が関連す ることに気 付かせる。	○	○	○	

<p>第3時 工業の発展と変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書p. 194～195 ・地図帳p. 93～96 ・資料集p. 67～69 	<p>○伊勢湾の臨海部と名古屋市中心とする平野部に中京工業地帯が、静岡県の太平洋岸に東海工業地域が形成されていることを理解する。</p> <p>○中央高地の工業が製糸業中心から精密機械工業へ、さらに電子機械工業へと転換したことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨海部には輸入した工業原料を加工する工場が集中していることを地図帳から読み取らせる。 ・この地域は江戸時代から繊維工業がさかんで、日本を代表する自動車産業も織物機械から始まったことを指摘する。 ・諏訪湖の沿岸を占めていた桑畑がなくなったことを読み取らせる。 ・高速道路の発達と工業の変化に気付かせる。 			○	○
<p>第4時 自然環境を生かした農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書p. 196～197 ・地図帳p. 93～94 ・資料集p. 66 	<p>○中央高地では、盆地や高原の自然環境の特色を生かした農業がさかんなことを理解する。</p> <p>○東海地方の農業は温暖な気候を利用するとともに、人々の工夫によって成り立っていることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・果樹栽培については、水はけの良い扇状地や寒暖の差が大きい盆地の気候との関連に気付かせる。 ・高原野菜の栽培については、夏でも冷涼な気候や大消費地との結びつきについて気付かせる。 ・太平洋岸では、温暖な気候を生かした茶やみかんの栽培がさかんなことを読み取らせる。 ・用水の整備によって施設園芸農業がさかんになったことを理解させる。 			○	○
<p>第5時【本時】 中部地方の特色を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書p. 198～199 ・地図帳p. 91～96 ・資料集p. 69 	<p>○前時までの学習を振り返り、産業の面から見た中部地方の地域的特色についてまとめる。</p> <p>○小グループに分かれて中部地方の地域的特色についての意見を出し合い、話し合いの結果を発表する。</p> <p>○<u>中部地方の地域的特色を表す適切な地理的事象を選び、地図の表題および説明文を考える。</u>【パフォーマンス課題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、資料集のまとめから、地域的特色を説明する際に主な地名や事項を取り上げやすくする。 ・4つのグループに分け、それぞれ「北陸地方では」「東海地方では」「中央高地では」「中部地方全体からいえることは」について考えさせる。 ・地図の題名および説明文に関する判定基準を提示して、意欲を高めるとともに、より質の高い考察を促す。 	○	○	○	
<p>第6時 中部地方の特色を地図にまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書p. 199 ・地図帳p. 91～96 ・資料集p. 69 	<p>○前時の活動で考えた、中部地方の地域的特色を表す地理的事象を、白地図に記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地名など基礎的・基本的な事項が定着しているかを各生徒の地図から把握し、適切に助言する。 ・地図中の記号や階級区分については、必ず凡例をつけさせる。 ・文字の大きさや彩色の工夫、イラストやグラフの記入など、わかりやすくまとめさせる。 			○	○

(5) 本時の展開

① 単 元 第3章「日本の諸地域」4節「中部地方」

② 本時の主題 「中部地方の特色を考えよう」

③ 本時の目標

- ・中部地方の地域的特色に対して関心を持ち、積極的に話し合っている。**関**
- ・中部地方の地域的特色を、地図や統計、写真資料などの根拠に基づいて多面的・多角的に考え、適切に表現している。**思**
- ・中部地方の地域的特色に関する情報を、地図や統計、写真資料などから適切に選択して、読み取っている。**技**

④ 展 開

	学習活動	学習内容	指導上の留意点	評価 (観点)
導 入	前時の復習 (5分)	○教科書p. 199から、中部 地 方の地名を確認する。	・前時の宿題として知識 の 定着を確認する。	関 地名を意欲的に 回答している。

展 開	班の活動 (10分)	○中部地方の特色について、「北陸地方では」「東海地方では」「中央高地では」「中部地方全体からは」の4つのテーマで話し合わせる。(資料集p.68ワーク1)	・4つの班にそれぞれ異なる課題を考えさせ、話し合った結果をホワイトボードに記入し、発表させる。	関 班の話し合いに積極的に参加している。 思 他の人の考えを聞き、自分の考えを述べている。
	班の発表・ 個人活動 (10分)	○班の代表が話し合いの結果を発表する。 ○資料集p.68のまとめを各自で記入する。	・他の班の発表の要旨を聞いて、資料集の解答欄に記入させる。	技 発表を聞いて、その内容を記入している。
	個人活動 (15分)	○ <u>中部地方の地域的特色となる事象を選択し、地図上に表したときの題名と説明文を考える。</u> 【パフォーマンス課題】	・ <u>判定基準(※)</u> に従い、中部地方の地域的特色の根拠となる事象を文章で説明させるとともに、複数の事象を関連付けるように促す。	思 根拠に基づいて多面的・多角的に考え、それを適切に表現している。
ま と め	次時の準備 (10分)	○中部地方の地域的特色を表す地理的事象を地図帳などから読み取り、白地図に記入していく。	・記号や階級区分を使う場合は、必ず凡例をつけることを指示する。 ・グラフやイラストなどを用いて表現させる。	技 地図帳や資料集から必要な情報を選択して読み取っている。

⑤ 本時の判定基準

※ 次の判定基準(ルーブリック)をあらかじめ生徒に示した上で、中部地方の特色を白地図に表現するときの「題名」と「説明文」を考える学習課題に取り組みさせる。

評価レベル	パフォーマンスの特徴 (評価する際の判定基準)
-------	-------------------------

A (すばらしい)	東海・北陸・中央高地の三つの地域に関する資料を、それぞれ地図帳や教科書、資料集などから選択して、三つの地域をお互いに関連付け、中部地方全体の特色として白地図の題名と文章で説明している。
B＋ (よい)	東海・北陸・中央高地の三つの地域に関する資料を、それぞれ地図帳や教科書、資料集などから選択して、二つの地域を関連付け、中部地方の特色として白地図の題名と文章で説明している。
B (合格です)	東海・北陸・中央高地の三つの地域に関する資料を、それぞれ地図帳や教科書、資料集などから選択して、中部地方の特色として白地図の題名と文章で説明している。
B－ (もう一步)	東海・北陸・中央高地の三つの地域のうち、二つ以下の地域に関する資料を地図帳や教科書、資料集などから選択して、中部地方の特色として白地図の題名や文章で説明している。
C (努力が必要)	中部地方の特色とあまり関係のない地理的なことから、地図帳や教科書、資料集から選択しているか、または中部地方の特色とした白地図の題名や説明の文章に大きなまちがいがある。

⑦ 本時の評価

関：中部地方の地域的特色に対して関心を持ち、班の中で積極的に話し合ったか。

思：中部地方の地域的特色を、地図や統計、写真資料などの根拠に基づいて多面的・多角的に考え、適切に表現することができたか。【パフォーマンス評価】

技：中部地方の地域的特色に関する情報を、地図や統計、写真資料などから適切に選択して、読み取ることができたか。